

三重の子どもたちの現状について

「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等の結果や分析を抜粋し、「三重の子どもたちの現状」として次のようにまとめました。

1 学力

- ・「平成30年度全国学力・学習状況調査」において、全国の平均正答率を上回ったのは、中学校数学Aのみにとどまりました。
- ・平成27年度小学校6年生、平成30年度中学校3年生の同一児童生徒の分析では、5教科中3教科（国語A、数学A、理科）で平均正答率が改善しました。
- ・平均無解答率は、小中学校合わせて10教科中6教科で全国の平均無解答率を下回り、本県の子どもたちの最後まで頑張ろうとする姿が見られます。

2 体力

- ・「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点は、中学校女子が全国平均値を上回りましたが、小学校男子・女子および中学校男子は、全国平均値を上回ることではできませんでした。
- ・小学校男子・女子及び、中学校女子が平成20年度からの調査開始以来、体力合計点が過去最高値を示すなど、体力向上にかかる取組の成果が表れてきています。

3 基本的な生活習慣

- ・毎日、同じくらいの時刻に就寝・起床する児童生徒の割合は、全国を下回っています。
- ・メディア（テレビ、DVD、スマートフォン、パソコン等）の画面を長時間見ている児童生徒は、小中学校ともに全国平均値より高い割合となっています。また、ケータイの所持の低年齢化が進むとともに、小中学校・高等学校の全校種でケータイの平均的な使用時間が増加傾向にあります。

4 子どもたちの家庭における学習習慣・読書習慣

- ・平日の家庭での学習時間は、平成27年度以降、小中学校ともに全国平均を下回っています。高等学校では、1日の学習時間が2時間以上の生徒の割合は、平日、休日ともに全国を上回りました。また、予備校・塾に通っている生徒の割合は、全国より高くなっています。
- ・授業以外の読書時間は、小中学校ともに、平成27年度以降全国平均を下回っています。高等学校では、本も新聞もほとんど読まない生徒の割合が全国よりやや高くなっています。

5 放課後の過ごし方

- ・小学校では、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている割合が最も高くなっています。
- ・中学校では、学校の部活動に参加している割合が最も高く、次いで、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている割合が高くなっています。

6 地域とのかかわり

- ・地域行事に参加している児童生徒の割合は、全国を上回る状況にあります。地域社会でのボランティア活動への参加については、全国を下回る状況が続いています。
- ・将来自分が育った地域で住みたいと思う児童生徒の割合は、中学生・高校生より小学生の方が高い傾向にあります。

7 自尊感情等

- ・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合は年々高まっています。「新しい問題を解いてみたい、できるようになりたい」、「諦めずに方法を考える」など、学習に対する興味・関心を示している児童生徒ほど学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。
- ・ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあると思う児童生徒ほど体力合計点が高い傾向にあります。

8 キャリア教育

- ・将来の夢や目標を持っていると思う児童生徒の割合は、小学校で全国よりやや低くなっています。

9 体験

- ・赤ちゃんとふれあった体験や小さな子どもと遊んであげた体験を持つ児童生徒の割合は60%以上、山や森、川や海で遊ぶ自然体験をしたことが何度もある児童生徒は約半数です。

10 子どもたちの規範意識

- ・いじめはどんな理由があってもいけないと思う児童生徒は96.0%以上、人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒は95.0%以上で、全国よりやや高い割合となっています。

11 児童・生徒の体育・保健体育に対する意識

- ・運動やスポーツを好きと思うことや、大切なものと考えている児童生徒の割合は、小学生男子及び中学生男子・女子で全国平均より高い状況となっています。

12 健康に対する意識

- ・健康でいるために運動や食事が大切だと考える児童生徒は、小中学校ともに9割程度となっています。

13 暴力行為

- ・小学校における暴力行為の発生件数は、平成28年度は前年度より減少したものの、平成25年以降増加傾向にあります。
- ・中学校では、衝動的なものや自分の感情をコントロールすることが難しく暴力行為に及ぶケースの増加により、平成28年度は前年度より発生件数が増加しました。

14 いじめ

- ・積極的ないじめの認知を推進したことにより、平成28年度のいじめの認知件数は平成27年度と比較すると増加しました。
- ・学校が把握したいじめの9割以上が年度内に解消しています。

15 長期欠席（不登校）

- ・小中学校の不登校児童生徒数は増加傾向にありますが、高等学校では平成28年度は減少しました。児童生徒が長期欠席（不登校）になる主な要因は、小学校では生活環境の急激な変化等、家庭に係る状況、中学校では入学時の環境変化による不安や友人関係をめぐる問題により、1年生で急増すること、高等学校では学業の不振や進路への不安であるなど、学校段階により異なっています。